



【住 所】神奈川県横浜市青葉区鉄町2201

【病院長】平元 周 先生

【病床数】300床

【スタッフ】医師 9名、内視鏡技師 3名、看護師 2名、コメディカル 1名

【内視鏡検査総数】(平成19年度)4,530件(うち、上部内視鏡検査 3,253件、大腸内視鏡検査 1,163件、胆膵内視鏡検査 48件)その他の内視鏡処置：EMR 141件、PEG 66件

【スコープ本数】16本(うち、上部検査用 7本、下部検査用 5本、十二指腸用 2本、経鼻用 2本)

『心技一如』という病院理念の下 受診者の立場に立ったきめ細やかな診療体制を確立

● 経験豊富な外科・消化器科の専門医が連携し、
患者様一人ひとりに最適のテーラーメイド医療を提供

横浜総合病院は横浜市青葉区の緑あふれる住宅街の高台にあり、『心技一如』理想の治療が意のままに行える高い技術と誠意の発揮—という病院理念の下、周辺住民へ質の高い医療サービスを提供しています。高い技術と専門性を持つ外科・消化器科の専門医と、経験豊富なスタッフで構成される消化器センターでも、この理念の下に受診者の立場に立った小回りのきく迅速な診療を実践しています。中でも特徴的なのは、一人の患者様に対して診断から治療、手術、術後・緩和ケアまで一人の医師がトータルで管理し、患者様との信頼関係を大切にされたテーラーメイド医療を提供していることです。センター長を務める白井聡先生は、「患者様が検査待ちで何日も不安な日々を過ごされることのないよう、外来で必要と判断されれば超音波検査やCT検査、さらには内視鏡検査を即日実施し、結果説明ができるよう心がけています。また、クリニカルパスを導入して短期入院手術を実施し、患者様の医療コストの削減と早期の社会復帰を推進しています」と説明されました。

内視鏡検査の苦痛を低減してなるべく楽に検査を受診していただくために、同センターでは平成11年からセデーションを用いた安楽な検査を推奨しています。年間3,000件ほど実施している人間ドッグにおいても、胃X線検査に代わり経鼻内視鏡検査を積極的に実施し、受診者にも好評だそうです。また最近では緩和ケアにも力を入れており、薬剤師・看護師と連携の上病院独自の緩和ケアマニュアルを作成し、疼痛管理に役立てているとのことでした。



消化器センター センター長
白井 聡 先生

● 増加する内視鏡検査と治療に対応するため スペシャリストの育成に努める

同院は病床数300床の一般病院で、聖マリアンナ医科大学病院や昭和大学藤が丘病院、昭和大学横浜市北部病院などの大学病院が集まる北域の中で、消化器センターで実施する年間の内視鏡検査総数は平成19年で4,530件にも上り、その数は年々増加傾向にあります(図1参照)。限られたスタッフ数でこれだけの検査を実施するには、医師・スタッフともに連携を深めたチーム医療の実践が必須です。同センターでは経験豊富な内視鏡技師、看護師が医師の介助を行っており、内視鏡処置前に患者所見に目を通して必要な処置具の準備を行うだけでなく、その処置に適した処置具の使用を医師に提案するなど、スペシャリストとして活躍しています。現在では、臨床検査技師に対しても内視鏡関連手技や処置具について学ぶ機会を提供し、より専門性の高い人材育成に力を入れています。また、ESDや胆膵系の治療内視鏡など高度な内視鏡診療も積極的に実施できるよう、臨床教育を実施している施設に医師を派遣するなど、先端技術の取得に努めています。

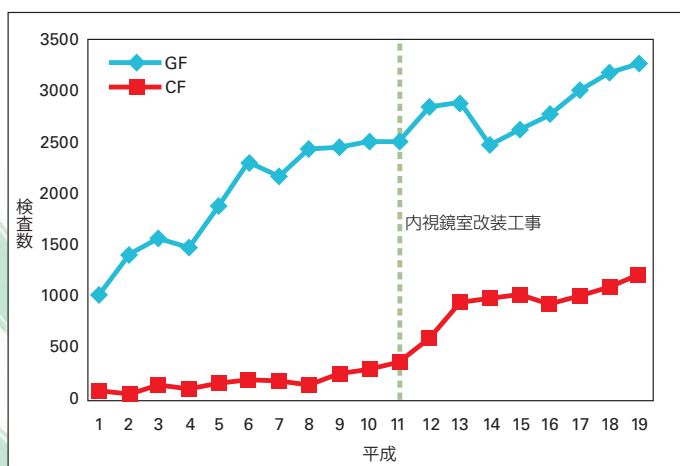


図1：内視鏡検査 年次推移

● 安全で確実な診療を実施するために スタッフ間のコミュニケーションを強化

同院は平成16年の1月に財団法人日本医療機能評価機構による認定病院(ver.4)となりました。その際には消化器センターでも洗浄消毒機や内視鏡を追加購入し、設備を充実させました。現在でも引き続き感染管理、安全対策に積極的に取り組んでいます。感染管理については、スタンダードプリコーションに則り、内視鏡学会のガイドラインを遵守し全例でスコープの洗浄・消毒を実施しています。安全管理についても高い意識で臨んでおり、関連施設からの依頼が多い胃瘻交換手技においても、必要であれば造影剤を用いるなど、腹膜炎等のリスクを考慮し確実に胃内にカテーテルが留置されたことを確認するなどの対策を取っています。また、同センターの医師は出身大学も様々でバラエティに富んでいるため、治療戦略や使用言語などを統一し、均一な診療の実施と安全性向上の目的から、月例でカンファレンスを開催し情報シェアとコミュニケーション強化の場としているそうです。



消化器センターのみなさん